

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

5月後半	1,028.25	(1.75)
6月前半	1,024.00	(2.50)
6月後半	1,021.00	(3.00)
7月前半	1,019.25	(3.25)
7月後半	1,018.00	(3.25)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月前半	+7.25	+3.63
5月後半	+5.13	+2.75
6月前半	+2.38	+0.88
6月後半	+0.50	-0.63

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	MAY
WTI	108.40
BRENT	121.80

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

6 日のナフサ C&F JAPAN は 1022.625 ドルと続伸、クラックスブレッドは続落。軟調なアジア市場に追隨して前日の欧州市場は売られた。欧州における期近玉のタイト感は徐々に薄れている。米国への裁定が閉じているなか、アジア市場に裁定玉が流出しないと、欧州の供給過剰感は払拭されない状況にある。それゆえ、アジア市場が弱含むと欧州市場も連れ安する展開となっている。また、原油価格が高値を更新したことで、ナフサ価格も同様に高値を更新している。そのためクラッカーのマージンが悪化しており、高値に対する警戒感が強まっている。一方、アジアのエンドユーザーのスポット調達動きは活発であり、高値で取引され、旺盛なナフサ需要が続いている。ブラツタイムは売り手優位で始まったが、底堅い買い手に支えられ小幅下落にとどまった。本日のアジア市場はベアなムードが続くだろう。旺盛な需要が窺えるが、高値警戒感が強い状況から伸び悩んでいる。一方で、根強い買い手も見られることから、下げ幅は限定的となる可能性が高い。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比)	予想値/評価値	速報値/(前日比)
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	909.37	82.49	52,133	(±0)		
11-1Q			50,513		52,500	(±0)
11-Apr	981.51	82.45	56,242	(13)		
11-May	1,021.94	85.45	60,689	(69)		
11-Jun	1,031.20	85.46	61,251	(10)		
11-2Q			59,394		61,400	(±0)
11-Jul	1,029.48	85.48	61,160	(6)		
11-Aug	1,027.94	85.50	61,083	(5)		
11-Sep	1,026.50	85.52	61,014	(8)		
11-3Q			61,086		63,100	(±0)
11-Oct	1,025.22	85.55	60,958	(20)		
11-Nov	1,023.91	85.58	60,902	(31)		
11-Dec	1,022.44	85.62	60,840	(33)		
11-4Q			60,900		62,900	(±0)
12-Jan	1,020.86	85.66	60,777	(35)		
12-Feb	1,018.84	85.71	60,691	(34)		
12-Mar	1,015.97	85.76	60,558	(33)		
12-1Q			60,675		62,700	(100)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2500 円と予想値に変更はない。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は小幅下落が想定されるが、為替通関レートが引き続き円安に振れていることが相殺し、MOF 評価値は総じて小幅に値を上げることが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比変わらずの 6 万 1400 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	108.83	(0.49)
	JUN	109.48	(0.49)
ICE / BRENT	MAY	122.30	(0.08)
	JUN	121.93	(0.04)

Oil Products(セント/gal) (ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	319.29	(0.84)
NYMEX / Heating Oil	MAY	319.12	(0.62)
ICE / Gas OIL	APR	1,025.50	(4.00)

[マーケットコメント]

6日の原油相場は、ロンドン市場、NY市場ともに小幅高。先行きの供給懸念やドル安を背景に買いが先行した。WTI期近5月限は一時109.15ドルまで上昇し、期近ベースとしては2008年9月24日以来の高値を付けた。ブレント期近5月限も、一時123ドル台へと値を上げ、2008年8月以来の高値を付ける場面も見られた。

リビア情勢の混迷が続いていることで、北アフリカおよび中東からの原油供給懸念が相場を支えている。北大西洋条約機構(NATO)が空爆を強化したこともあり、同国からの原油輸出が停滞するとの懸念が強まった。これら一連の地政学的リスクが相場の下支え要因となるなか、ドルが対ユーロで下落していることで、ドル建て取引の原油相場に割安感が意識された。本日開催される定例政策委員会で、欧州中央銀行(ECB)が利上げに踏み切るとの見方から、ユーロ買い基調が強まっている。さらに、今回の利上げ後も、一段と金利を引き上げるとの見方が強まっている。一方、米連邦準備理事会(FRB)は、ハト派が優位に立っている模様で、市場では米国の利上げは来年にずれ込むとの見方が広がっている。ドルは対ユーロで約1年2ヶ月ぶりの安値へと下落しており、ドル安を背景にコモディティ市場へ投機資金が流入したと見られる。ただ、この日発表された週間石油統計で、原油在庫が増加したことや、取り崩しが進んでいたガソリン在庫が予想ほど減少しなかったことで、上値が抑えられる場面もあった。

トピックス

「EO、EO誘導品値上げへ = 日本触媒」

日本触媒は、エチレンオキシド(EO)およびその誘導品(エタノールアミン、ソフタノール、エチレングリコール類)について値上げすることを明らかにした。値上げ幅はプラス16円/kg以上で、改定時期は4月10日出荷分より。1月に国産ナフサ価格5万2000円/KLベースを前提に値上げを実施したが、その後も原料価格は上昇しており、足元では6万円/KL前後が想定されるため、採算是正のため再度値上げをする。

「アクリルラテックス値上げへ = 旭化成ケミカルズ」

旭化成ケミカルズは6日、アクリルラテックスの価格改定を実施することを明らかにした。改定幅はプラス22円/kgで、改定時期は4月21日出荷分より。アクリルラテックスの主原料であるアクリル酸エステル、MMAなどが値上がりしており、製造コストの低減に最善の努力を続けるもコストアップ分を吸収するには至らず、価格改定せざるを得ないと判断した。

「合繊系・綿値上げへ = 東レ」

東レは6日、衣料用・資材用の各分野へ販売するナイロンおよびポリエステル系の(長繊維)・綿(短繊維)について値上げすることを明らかにした。値上げ幅はプラス30円/kgで、値上げ時期は4月出荷分から実施。中東情勢の混迷により原油価格は更なる高騰が懸念され、加えて合繊原料マーケットへの投機資金流入や、史上最高値を更新し続ける綿花価格の暴騰の影響もあり、高純度テレフタル酸(PTA)およびエチレングリコール(EG)といったポリエステル原料が高騰し、なお先高観が強い見通し。また、ナイロン原料であるカプロラクタム(CPL)も、連日のように過去最高値を更新している状況。固定費および比例費のあらゆる項目について費用削減や効率化など自助努力を続けるも、補えないコストアップ分については、価格転嫁せざるを得ないと判断した。

「2月の中国HDPE 国別輸入数量トップ10」

HDPE	2011年2月			CIF CHINA
	輸入先	数量	価額	
		(MT)	(ドル)	
合計	205,965	279,099,036	1,355	
前月比	▼ 126,670	▼ 163,641,741	24	
前年同月比	▼ 53,822	▼ 52,196,881	80	
数量TOP10				
韓国	40,270	58,010,906	1,441	
サウジアラビア	27,905	35,648,390	1,277	
イラン	21,184	27,182,567	1,283	
タイ	21,074	28,045,057	1,331	
アラブ首長国連邦	20,813	25,616,692	1,231	
カタール	12,494	16,279,307	1,303	
台湾	9,631	13,229,680	1,374	
インド	9,011	12,190,477	1,353	
クウェート	7,945	10,002,326	1,259	
マレーシア	7,261	9,703,478	1,336	

参考

日本	2011年2月			CIF JAPAN
	輸入先	数量	単価	
		(MT)	(円/kg)	
合計	4,992	123	1,491	
TOP3				
タイ	3,549	114	1,388	
米国	413	130	1,578	
ブラジル	373	174	2,117	
スポット市況 (ドル/MT)	12月	1月	2月	
CFR CHINA	1,259 ~ 1,281	1,299 ~ 1,308	1,309 ~ 1,321	

(出所: 中国海関総署)

Daily Market Report

「2月のHDPE輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のHDPE輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比558トン増の4992トン、輸入価額は6億1270万3000円となった。

主な原産地別輸入数量の割合は、タイが71%、米国が8%、ブラジルが7%、韓国が4%、サウジアラビアが3%となっている。

価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比3円安の123円/kg。貿易統計上のHDPE統計値は、汎用品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用品の輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、右表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
志布志	マレーシア	15,360	843	55	658 - 671
東京	マレーシア	20,000	1,564	78	937 - 956
横浜	ブラジル	25,000	2,610	104	1,251 - 1,277
東京	サウジアラビア	24,750	2,697	109	1,306 - 1,333
大阪	サウジアラビア	49,500	5,445	110	1,319 - 1,345
名古屋	サウジアラビア	49,500	5,445	110	1,319 - 1,345
神戸	ドイツ	1,990	219	110	1,319 - 1,346
博多	タイ	120,000	13,246	110	1,323 - 1,350
清水	タイ	48,000	5,303	110	1,324 - 1,351
那覇	サウジアラビア	24,750	2,747	111	1,330 - 1,358

(出所:財務省)

「原油在庫は予想を若干上回る増加 = EIA」

エネルギー情報局(EIA)が発表した週間石油統計(4月1日までの1週間)によると、原油在庫は前週比195万2000バレル増の3億5766万4000バレルと5週連続で増加し、事前予想(170万バレル増)を若干上回る増加となった。在庫水準は前年同期比0.4%増と前週と変わらず。生産量は日量563万8000バレル(前週比7万バレル増)と増加した。2004年4月2日の週以来、7年ぶりの高水準。輸入量は同895万バレル(同17万8000バレル減)と減少した。供給量が減少するなか、製油所への総投入量は同1484万5000バレル(同4万7000バレル増)と小幅に増加し、投入量の増加から製油所稼働率は84.38%と0.27pt上昇した。前週対比では供給減少幅がやや上回ったことで、在庫増加幅は前週よりも小幅にとどまった。なお、クッシング在庫は前週比1万6000バレル減の4187万バレルと小幅に減少したが、引き続き高い水準を維持している。SPRは、前週比変わらずの7億2654万2000バレル。

ガソリン在庫は2億1667万9000バレル(前週比35万7000バレル減)と、事前予想(190万バレル減)ほどは減少しなかった。7週連続の減少。在庫水準は前年同期比2.6%減と前週の3.5%減からマイナス幅を縮小。生産量は日量889万1000バレルと前週から同7万バレル増加した。輸入量は同107万7000バレルと前週から同19万3000バレルの増加。100万バレルを超えるのは、2月4日の週以来。需要は同885万3000バレル(同1万3000バレル減)と小幅に減少した。前週比では需要減供給増の構図から、在庫減少幅は前週よりも縮小した。なお、4週平均ベースの需要は同890万6000バレルと前年同期(同901万8000バレル)を1.2%下回っている。4日の全米レギュラーガソリン小売価格は前週比8.8セント高の368.4セントと2週連続の値上がり。2008年9月下旬以来の高水準。

中間留分在庫は前週比19万5000バレル増の1億5352万バレルと、事前予想(100万バレル減)に反して増加した。在庫水準は前年同期比5.4%増と前週の6.0%増からプラス幅を縮小。なお、中間留分在庫のうちディーゼル油在庫(ULSDおよび50-500ppmの従来型ディーゼル油)は前週比100万2000バレル増と3週連続の増加。一方のヒーティングオイル在庫(500ppm以上)は同80万7000バレル減とこちらは6週連続の減少。中間留分の生産量は日量430万7000バレル(同7万4000バレル増)と増加したが、輸入量は同13万1000バレル(同11万2000バレル減)と減少した。需要は同367万2000バレル(同3万5000バレル増)と小幅に増加した。前週対比では需要増供給減の構図から、在庫増加幅は前週のそれよりも縮小した。4日の全米ディーゼル油小売価格は397.6セント(前週比4.4セント高)と2週連続の値上がり。2008年9月中旬以来の高い水準。

原油および石油製品在庫の合計(SPRを除く)は、10億4240万バレルと前週比30万バレル増、前年同期比0.7%減。石油製品需要(過去4週平均)は日量1905万2000バレルと、前年同期の同1902万4000バレルを0.1%上回っている。

「2月のエチレン生産、前年同月比2.1%増 = 経済産業省」

経済産業省製造産業局化学課は6日、2月のエチレン生産速報を発表した。同統計によると、2月のエチレン生産量は60万5300トンと前月から6.4%減少した。ただし、前年同月を2.1%上回っている。なお、2月に定期修理のため停止したエチレンプラントはなし、前年同月の定修は1プラント。

「PP製造装置、操業再開 = サンアロマー」

サンアロマーは4日、原料供給制約から操業を停止していた川崎工場のPP製造設備について、原料供給再開に伴い2日までに操業を再開した。また、計画停止していた大分工場の製造設備1系列も予定通り操業を再開。添加剤等の副資材の一部は依然調達が困難であり、今後生産に支障をきたす事態が予想される製品については、当該副資材の同等品を使用しての生産継続を検討している。

「ローディアを買収へ = ソルベイ」

ベルギー化学大手ソルベイは4日、仏特殊化学大手のローディアの株式を買収する枠組みについて合意したことを明らかにした。同社はローディアの企業価値を66億ユーロとみており、ローディア株を1株当たり31.60ユーロで買収することを提案。ローディアの取締役会は、全会一致で提案の受け入れを推奨している。株式の取得額は34億ユーロ、8月末には買収が完了する予定。今回の買収による収益の増加分は初年度から業績に反映され、新会社の売上高は計120億ユーロになる見通しである。ローディアは幅広く新興国市場で事業を展開していたため、売上高の40%を新興国市場が占めることになる。

「インドのイオン交換樹脂工場の稼働 = ランクセス」

独化学大手ランクセスは、約6000万ユーロを投じてインドのグジャラート州ジャガディア化学団地に建設した新規イオン交換樹脂プラントが、本格的な稼働に入ったことを明らかにした。3万5000トン/年のプラントは昨年12月に完成、合計6つの生産ラインのうち5ラインが稼働しており、完成品の出荷準備中である。アジアで最先端の設備を備えたプラントが生産する水処理化学製品は、半導体、製薬、食品、発電などの産業向けに供給される。

本レポートに掲載されている情報は、時間の経過または様々な後発事象によって予告なしに変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。なお、掲載された情報は信頼できると判断した情報源に基づき作成したものです。株式会社アメリクス・エナジー・コム(以下、弊社)はこの完全性及び正確性に関する責任を負いません。また、本レポートに示した見解および予測は必ずしも適切かつ妥当なものとはならず、本レポート作成日における弊社の判断です。本レポートに掲載されている内容の著作権は、原則として弊社に帰属いたします。